

ダンボールコンポストを作ってみよう

ダンボールコンポストとは？

自宅で簡単にできるダンボールを使用した「生ごみ処理機」のことです。食べ残しなどの生ごみを微生物の力で分解し、家庭菜園などで使える肥料を作ることができます。ごみが減るだけでなく、栄養満点の堆肥が作れるなど、資源の有効活用にもつながる環境にやさしい取り組みです。

用意するもの

- ・ダンボール箱(新聞紙片面程度の大きさとダンボールの底を2重にするもの)
- ・基材 20Lとしてピートモス 12L、もみ殻くん炭 8L (箱の容量の 2/3 程度にした場合)
*その他 腐葉土・米ぬか・土などでも代用可能
- ・スコップ、またはゴム手袋 (基材と生ごみを混ぜます)
- ・ダンボールを底上げするもの (育苗パレット、ペットボトル、すのこなど)
- ・虫よけとしてダンボールの上部を覆うもの (使い古しのTシャツ、不織布、新聞紙など)
- ・棒状温度計 (あればOK)

STEP 1 ダンボールコンポストを作ろう！



- ①ダンボール箱の底などをクラフトテープ（紙製）でしっかり塞ぎましょう。
*すき間から虫が進入し、卵を産みつけるのを防止します。



- ②底が抜けないように、ダンボール箱の底にダンボールを二重に敷き補強しましょう。



- ③基材はピートモスともみ殻くん炭を6：4に混ぜたもの（箱の容量の 2/3 程度）です。（その他 腐葉土・米ぬか・土などでも代用可能です。）

STEP 2 ダンボールコンポストを設置しよう！



- ①風通しがよく、雨のかからない場所に置きましょう。
例) 15℃以上ある軒下やベランダなどで、壁には密着させないでね。
- ②ダンボールの底の風通しをよくするため、育苗パレットやペットボトルなどの上に置きましょう。



ポイント ダンボールは水を含むと崩れる原因になります。
ダンボールがフニャフニャになれば交換しましょう。

STEP3 生ごみを入れる準備をしよう!

①発酵状況を確認するための『温度計』と生ごみを混ぜる『スコップ』または『ゴム手袋』を箱の中に入れてみましょう。
(外に置いておくと虫に卵を産み付けられることも・・・)



②虫がコンポストに入ってこれないように、袖と首回りを縫ったTシャツを被せましょう。

STEP4 生ごみを入れてみよう!



①水を切った生ごみを入れましょう。

重要! 1日の投入量は500g程度にしよう!
生ごみを小さくすると、分解が早いよ!

②空気が中に入るように、スコップでよくかき混ぜよう。
*ダンボールを傷つけないように注意してね!

③混ぜ終わったらしっかりフタをしよう。

注意

分解しにくいものたち!

- ・鳥や豚、牛などの骨
- ・みかんなどの皮 (防腐作用があるもの)
- ・玉ねぎの皮・トウモロコシの芯

*分解しにくいものは、そのまま残って匂いの原因になるよ。



STEP5 繰り返しよう!

①温度や水気に気を付けてSTEP4の工程の繰り返しをしよう。

*分解はすぐには始まらないので、最初の1~2日は見守ろう。温度が45℃前後に上がれば分解の合図だよ。

*分解が進まない時や、温度が上がらない時は微生物を応援するため、生ごみを入れるのを止めてパワーアップ素材を入れて見よう。

②生ごみを入れない日もかき混ぜて空気を入れよう。

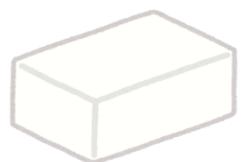
★パワーアップ素材★



食用油



米めか



チーズ・
納豆・牛脂
など

重要!

虫が・・・、カビが・・・、匂いが・・・、どうすれば？

- 虫はどうしたら？
分解が進み温度が上がれば、虫は暮らしにくくなるため自然と出て行きます！
- カビが発生したら？
白カビであればそのまま大丈夫です。よくかき混ぜましょう！
- 匂いが気になりだしたら？
コーヒーや紅茶のカス、ハーブを入れると脱臭効果があります。

STEP6 熟成させて堆肥にしよう!

- ①3ヶ月間ほど続け、生ごみの分解が遅くなり全体にべたつきが出たら投入をやめましょう。
- ②そのまますぐにでも使用出来ますが、1ヶ月かけて熟成させるとさらに効果UP!
- ③水分や匂いがなくなり、サラサラな状態になったら堆肥の完成です。出来た堆肥は濃度が高いので、3倍の土と混ぜて使うのが Good!
*すぐに使わないときは、乾燥させてビニール袋に入れて保存しよう。

まとめ

成功するためのコツ!

○毎日かき混ぜて、中に空気を入れてあげましょう!

- ・微生物は、酸素を使って生ごみを分解するので空気が大切です。

○生ごみはしっかり水を切って、入れすぎないようにしよう!

- ・水気が多いと分解が進まず、虫や腐敗菌の繁殖の原因になります。

○温度を見て、コンポストの状況を把握しよう!

- ・どうしても温度が上がらない時は、パワーアップ素材を入れたり、箱のまま天日干ししたりするのも効果的です。

生ごみ処理について

家庭から出される「燃えるごみ」の約40%は生ごみです。そして生ごみの約80%が水分です。つまり、5kgの「燃えるごみ」の中には2kgの生ごみがあり1.6kgの水分が含まれる計算です。

「燃えるごみ」の中に水分が多く含まれていると、ごみ焼却施設の温度が下がってしまいます。焼却炉はダイオキシンなどの発生防止の観点から焼却する温度を800℃以上に保つ必要があります。温度が下がるとそれだけ、たくさんのエネルギー（灯油）を使って高温を維持することになります。

たくさんエネルギー（灯油）を使って燃やすということはその分CO₂も多く排出され環境破壊に繋がりますね。

ごみ焼却場のエネルギーに掛かるお金も私たちの税金で賄われています。各家庭からの生ごみを少しでも減らすことができれば、焼却場で使用されるエネルギーの量を抑えることができ、その分発生するCO₂の量も抑制できることになります。

チェック



“失敗したと思っても、気長に挑戦してください。”

“堆肥作りの楽しさ、花や野菜を育てる楽しさを実感してみてください。”

“楽しみながら実践することが何より大切です。”

吉野町ホームページ
基材の種類や使い方、
実験記録の情報はこちら



問い合わせ先

吉野町役場 暮らし環境整備課 環境対策室
美吉野環境ステーション

住所 吉野町大字飯貝 1235-1

電話 0746-39-9145

Fax 0746-39-9146